知的集積産業への転換と新しい利益基準

令和６年６月３日
黒田インターナショナルコンサルティング
黒田　毅

世界の富の集約は、金融という現実とともに知的集積産業への流入とシフトを行うものである。

これらは自由経済システムにおける勝者がその資本力とともに、未来の所有を模索しているのである。

これらは知的集積産業が有する高い利益性を明示したい。また全ての産業、（第３次産業まで）におけるこれら新しい現実への転換は現実であり、新しい企業環境においてその利益性の追求は生き残りにおける企業に与えられた選択なのである。

これら先端産業は遥かに優れる企業経営システムや、技術を有し、これらがさらなる未来の創造を提案しているのである。これらソフトの深耕という新しい現実は、企業が新しい現実への参加を実現しているのである。これらは次世代という現実は、手工業から知的集積におけるビジネス構築へ転換し、これらは新しい企業現実と基準におけるグローバリゼションという潮流を構築しているのである。

また新しいインダウトリー４．０似伴う生産システムの生産性などは、企業の生産性の変化やより優れた製品品質における製品の提案などを実現するものである。

これら企業環境の変化は市場での勝ち組が、より優れた利益の構築を可能とし、それらがさらなる企業の現実を模索しているのである。

これら自由経済システムにおける現実は全ての企業がこれを否定することはできないのである。

またこれら知性における進歩性は、企業の大幅な向上を与え、これら変化が今日新たな産業革命としての現実を呈しているのである。これら現実において、新しいエリートたちが存在し、これらの現実が存在するのである。それらは彼らの能力や学歴において、その否定ができえないのである。